



水 稲 管 理 情 報

令和 8 年 4 月
J A 志 賀 会
能 登 南 部 営 農 推 進 協 議 会

田 植 え 編

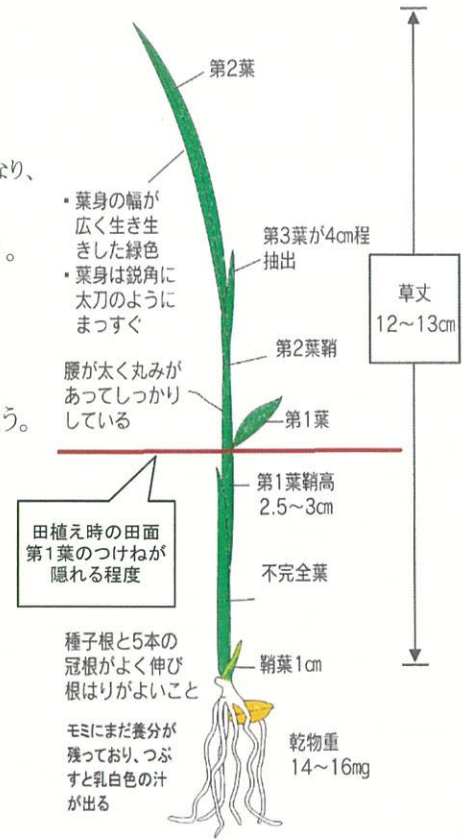
育苗日数1か月以内の健苗を 植え、分けつを確保！

1 健苗の準備

〔計画的な播種で、健苗育成に努めましょう〕

- 田植え後の活着や初期分けつの発生を促すために、健康な苗(右図)を植えます。
- 種もみの中に養分の残っている状態の葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。
⇒ 老化苗(育苗日数が長く、葉齢が進んだ苗)では、活着が遅れ、初期分けつの発生が遅くなり、優良茎の確保が難しくなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。
- 田植えの4~5日前からは夜間もハウス側面を開放し、外気に慣らしましょう(順化)。

田植時の良い苗



2 代かき作業について

- 代かき作業は、田植え日や除草剤散布日を考慮し、計画的に実施して下さい。
- 環境に配慮した能登米生産にあたり、代かきによる濁水の河川流出を防止しましょう。
- 畦が崩れていたり、穴などの漏水箇所は早めに補修しましょう。
- 浅水での代かき作業を実施し、代かき濁水は排水しないようにして下さい。
- 田植え前の「強制落水」は避けて下さい。

3 田植え作業について

- 植付本数：3~4本/1株 ⇒ 太植えは、過繁茂を助長します。
- 栽植密度：60株/坪以上 ※極端な疎植は避けてください。
- 植付深さ：2~3cm(第1葉が見える程度)の浅植え
⇒ 深植えでは、分けつや根の発生が遅れます。
- 水 管 理：活着後は浅水管理(2~3cm)を基本とし、低温が予測される日や風が強い日のみ一時的に深水管理とします。
(天候回復後は速やかに浅水管理に戻して下さい)

- 田植え前と田植え中に、田植機の栽植密度、植付け深さの設定を確認しましょう。

4 基肥施用について [志賀米・能登米コシヒカリ：化学窒素成分量7kg/10a以下]

- 基肥一発肥料は全層施肥の場合、代かき直前に行い、代かきから田植えまでを5日以上空けないようにして下さい。
(施用日と田植日の日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育がズレ、倒伏や品質低下を招きます。)

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		志賀米・能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB 有機入り能登コシ一発 NEO	20~30	—
	BB 有機入り能登コシ一発 DX	20~30	—
	BB けい酸パワー・コシ一発くん	40~55	—
	BB 里山の香 DX	45~53	—
	BB 早生一発くん NEO	—	30~40
分施肥体系	BB 高度056号	20~28	35

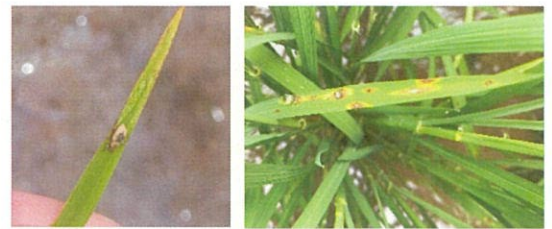
※ 施用量は目安です。ほ場の地力に応じて、加減して下さい。

※ コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した「志賀米」・「能登米」栽培のため、施用量の上限を厳守して下さい。

5 病害虫防除について

◆ 苗箱施薬剤の散布について

- ・ イネミズゾウムシ、イネドロオウムシなどの初期害虫や葉いもちの予防のため、防除を実施して下さい。
- ・ 6月下旬以降の低温多雨により、管内でもいもち病の発生が確認された年もあります。



イネミズゾウムシ

葉いもち

薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
ブーンレパード箱粒剤 (3成分)	緑化期 ～移植当日	50 g/箱	いもち病、白葉枯病、紋枯病、ごま葉枯れ病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イナゴ類 等

※ JA育苗センターの苗には苗箱施薬剤が散布済みです。重複散布しないよう注意して下さい。

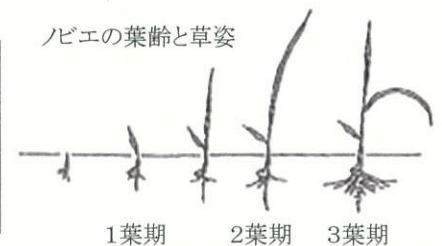
※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落して下さい。

6 除草剤の使用について

- ・ 雑草は代かき直後から発生し始めます。除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。
- ・ 湛水散布する除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。田植同時処理除草剤を散布した場合は、田植後直ちにゆるやかに入水し、湛水状態(4～5cm)を保ちましょう。
- ・ 散布後3～4日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態(4～5cm)を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。なお、やむを得ず入水する場合は静かに(処理層を壊さないよう)行って下さい。

(参考)代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉齢	1.5 葉齢	2.0 葉齢	2.5 葉齢	3.0 葉齢
代かき後の日数 (平年の場合)	志賀	9日	13日	17日	21日	24日



※ 5月1日に代かきを行った場合で平年の有効積算温度により試算

〈初期剤＋中期剤の体系処理〉

剤	成分	除草剤名	使用時期
初期剤	1	マーシェット1キロ粒剤	田植同時～ノビエ1.0葉期
	2	かねつぐ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ1.5葉期



剤	成分	除草剤名	使用時期
中期剤	2	ワイドショット1キロ粒剤	田植後15日～ノビエ4.0葉期
		ニトウリュウ1キロ粒剤	
	3	ブイゴールSM1キロ粒剤	田植後15日～ノビエ3.5葉期
		ウィードコア1キロ粒剤	田植後 7日～ノビエ4.0葉期

〈初中期一発体系処理〉

剤	成分	除草剤名	使用時期
一初発中期	2	カチドキZ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ3.0葉期
	2	ボデーガードプロ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ3.5葉期
	3	アットウZ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ4.0葉期

● 残草や後発生があった場合

剤	成分	残った雑草	除草剤名
後期剤	1	ノビエのみ	ヒエクリーン1キロ粒剤
			クリンチャー1キロ粒剤
		広葉雑草のみ	バサグラン粒剤
			アトトリ1キロ粒剤
		ノビエ、広葉雑草	ロイヤント乳剤

※ 「志賀米・能登米」コシヒカリに使用できる除草剤は限られています。この情報に記載された剤は使用可能で、他に使用できる剤は営農ごよみ等を確認して下さい。

※ 「志賀米・能登米」コシヒカリ以外の品種は除草剤の指定はありません。

7 補植について 〔補植苗はいもち病の発生源となるため、すぐに処分〕

- ・ 20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株が大きく育ち、欠株分をカバーするため減収にはつながりません。やむを得ず補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい。

⇒ 散布後では、除草剤の薬害により補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります。

- ・ 補植用の活け苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業後は速やかにほ場から撤去して下さい。